

タイ版大川小学校があるタレーノック村にホームステイ

プーケット国際空港から北へ150km。首都バンコクから南に約700km。タイ南部のアンダマン海岸沿いにあるイスラム教徒の住む小さな漁村タレーノック村。この小さな村に2004年12月インド洋大津波が襲いました。学校に登校していた小学生たちが津波に流される事件が起き、今まで注目されたことがなかった人口300人の小さな漁村はタイ国内を始め世界にも知られることとなりました。

津波後、住民たちは自らの文化と環境を生かした体験型のホームステイプログラムをつくりました。葉っぱで屋根を葺いたり、カシューナッツの殻を剥くなどの日常の暮らしの体験や、津波後に女性の参画を促すために始められた手作りせっけんづくり、ろうけつ染、マングローブ探検、地引網など様々なアクティビティを用意しています。

この村の活動をサポートするのは、災害支援活動から生まれたコミュニティ・ベースド・ツーリズムの旅行会社アンダマンディスカバリーズ社です。タイ政府観光庁のタイ王国観光大賞など数々の賞を受賞し。英国の放送局BBCと世界中で発行する雑誌ニュースウィークの共同企画「BBC World Challenge 2009」にて決勝まで勝ち残るなど世界中から評価されています。

呼びかけ団体であるツナミクラフトが10年以上この村を支援してきたからこそ実現した、他では出来ないスタディツアーです。



地引網で漁師体験



イスラム衣装のコスプレ体験



ろうけつ染め体験

津波の高さを体感



人生が変わる体験が待っています。



タレーノック村のビーチにて



マングローブ探検



リゾートホテルで
フェアトレードのさをり織り体験



仮設住宅街跡